

順位	氏名（議席）	発言の要旨
14	石川 浩司（4）	<p>1. 学校の働き方改革における子供たちへの影響と地域連携について</p> <p>学校における働き方改革も2019年に文部科学省に推進本部が設置され進められてきました。同時期の2020年からは新型コロナウイルス感染症もあり、一昨年5月に5類に移行されるまで学校生活も制限され大きな変化がありました。現在も、新型コロナウイルスが落ち着きを見せ学校生活もコロナ禍前に戻るかといえば、全てが戻ってはおりません。これはコロナ禍の影響なのか、働き方改革の影響なのか、判断できない市民も多くいます。</p> <p>部活動の地域連携・地域移行についても働き方改革が要因の一つであり、学校生活の中でもスポーツ祭を取っても、コロナ禍前は終日行われていたものが半日に短縮され行われるなど、当時はコロナ禍の影響と思われたものが、現在は働き方改革の影響であるものも数多くあります。</p> <p>この大きな変化は子供たちへどのような影響があるのか、変化に対応し地域との連携を取れるように本年度から全ての学校に学校運営協議会が設置されています。</p> <p>今後も急速な少子化が進む中、15年から20年先の社会を予測し、子供たちがその時代を幸せに生き抜くことが大切だと考え、教育委員会としても今できることを着実に実行していくとのことですが、以上のことを踏まえ以下質問します。</p> <p>(1) 学校生活の中で時間をつくるためになくしたものと並びに減らしたものとなど具体的にどのようなものがあるのか。また、子供たちへの影響はないのか。</p> <p>(2) 文部科学省が取り組んでいる学校・教師が担う業務に係る3分類ですが、富士市としてすでに分類ができ実行されているのか。また、部活動の地域連携・地域移行など、地域との連携が大切だと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 先生方の負担を軽減することも目的にした学校給食費の公会計化は、その後負担減になっているのか。</p> <p>(4) 学校の働き方改革により、現在の残業時間など目に見える実績は出ているのか。</p> <p>(5) 市の教育委員会として、大小関係なくどの学校でも、先生方の働く環境の改善をしながらも、子供たちが働き方改革による影響を受けることなく健やかに育つには何が大切か。また、自立をどのように浸透させていく方針か。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
15	小野 泰正（6）	<p>1. 魅力ある富士市を持続可能な観光地域とする、まちの振興につながるようなインバウンド対応</p> <p>近年、富士市には多くの外国人観光客が訪れておりますが、2024年には富士山夢の大橋におけるオーバーツーリズムが問題視され、適切な対応が求められたことも記憶に新しいところです。春には龍巖淵において、桜と川、富士山の美しい風景を求めて、多くの外国人観光客が訪れます。</p> <p>しかしながら、富士市は観光地としての魅力を有しながらも、多くの外国人観光客が通過するのみで素通りしてってしまうとの声も多く聞きます。富士市観光基本計画に基づき、富士市でも世界遺産富士山を最大限活用した観光振興を行ってきました。</p> <p>その中で、課題として、民間主体による個々の観光事業の創出や継続・発展を促し、これを支援するとありますが、富士市の市民・小売店舗・飲食店がインバウンドに対応し、観光を軸としたまちの振興を図っているのか、以下の点についてお伺いいたします。</p> <p>(1) 現在、市はどのようなインバウンド対応をしていますか。</p> <p>(2) 外国人観光客が富士市の日常生活の場を訪れることによって発生し得る課題をどのように認識されていますか。</p> <p>(3) 言語の壁による不安が地域振興の妨げになるとの懸念もありますが、近年の機械翻訳・AI翻訳の発展により、外国人観光客の受入れが容易になっていると考えます。市民がこれらの技術を活用しやすい環境整備について、どのようにお考えでしょうか。</p> <p>(4) 市民や小売店舗、飲食店がインバウンド対応を進める際、多言語対応をはじめとする様々な課題に直面することが考えられますが、その際に相談できる支援体制は整備されていますか。</p> <p>(5) 今後、富士市における持続可能な観光地域づくりをどのように推進されるお考えでしょうか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
16	萩野 基行（12）	<p>1. 学校における防災教育について</p> <p>南海トラフ地震や豪雨など、本市における災害対策は予断を許さない状況である。</p> <p>災害発生時にはまず自助、自分の身を守る行動を取ることが最重要で、その次に共助、周囲の人と助け合うことは防災の原則である。本市の学校での避難訓練や防災教育においても、そのことを念頭に置いて取組を行っていると同っており、大変頼もしく思われる。</p> <p>そのような取組の中、災害が発生した際には、児童生徒も地域防災の一翼を担うこととなり得ると考え、以下伺う。</p> <p>(1) 学校の防災教育の取組について伺う。</p> <p>(2) 知識があってもいざというときに体が動かなければ、逃げることも助けることも難しい。そこで、スポーツ感覚で体を動かして、知識と技術を体で覚えることができる防災体験授業を導入してはいかがか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
17	福永 意人（1）	<p>1. オープンファクトリー等の促進について</p> <p>本市は製紙業、輸送機械、化学工業等の多様な業種が集積する工業都市として栄えてきた。今なお多くの企業が地域経済を支えているだけでなく、近年は工場夜景の取組に見られるように、観光資源としての付加価値も高まっている。</p> <p>オープンファクトリーとは、ものづくり企業が生産現場を外部に公開したり、ものづくりの体験を提供したりする取組である。特に、企業単独ではなく、地域内の企業等が集まり開催する地域一体型オープンファクトリーは、従来型の工場見学よりも規模が大きく、回遊性が高いことから、ものづくりのまちであることを地域内外にアピールする効果が期待できる。地域の魅力やブランド力を強化するだけでなく、企業で課題となっている人材不足や労働力不足等の解決にも寄与できると考え、以下質問する。</p> <p>(1) 本市では、工業都市、ものづくりのまちとして対外にどのようなアピールをしているか。</p> <p>(2) 地域一体型オープンファクトリーを実施してはいかがか。</p> <p>(3) 本市の企業やその技術力等を地域内外に広く周知するため、富士市役所内やその他の公共施設等に常設展示ブースを設置してはいかがか。</p> <p>2. 絶メシによる地域活性化について</p> <p>絶メシとは、地元で長らく愛され続けていたにもかかわらず、店主の高齢化や後継ぎ問題などで店をたたまざるを得ない状況になった飲食店の「絶やしたくない、絶品グルメ」を指す。群馬県高崎市で地域創生プロモーションとして始まり、絶メシを掲載した絶メシリストには大きな反響があり、後継ぎ問題にも一定の効果をもたらした。また、これらの取組が書籍化、ドラマ化されるなど、地域の認知度や魅力の向上にもつながった。そこで、以下質問する。</p> <p>(1) 全国的に飲食店の閉店が高水準になっているが、市内の状況はいかがか。</p> <p>(2) 絶メシは非常にユニークな取組であり、様々な効果が期待できることから、導入を検討してはいかがか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
18	市川 真未（3）	<p>1. ふじさんてらすMierulaの活用について</p> <p>2013年に富士山の世界文化遺産登録をきっかけに改修された本市庁舎屋上のMierulaは、富士山と市内を一望できるすばらしい絶景スポットである。市民が利用しやすい愛される庁舎を目指して、以下質問する。</p> <p>(1) Mierulaの整備は十分だとお考えか。</p> <p>(2) Mierulaはどれだけの人に知られ、活用されているか。</p> <p>(3) 今後どのように活用すれば、市民の日常生活やコミュニティー活動に最も役立つと思うか。</p> <p>2. 放課後等デイサービスと児童発達支援の今後について</p> <p>放課後等デイサービスは就学している障害児、児童発達支援は未就学児が対象であり、どちらも年々増加傾向にある。障害児の自立を促進させるための施設として、今後の在り方について以下質問する。</p> <p>(1) 通所受給者証の発行要件と期間はいかがか。</p> <p>(2) 各施設の指導はどのように行っているか。</p> <p>(3) 各施設の障害児の自立支援を、市はどのように促しているか。</p> <p>(4) 療育と教育の連携体制はいかがか。</p>